

秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第 9 号

発行日：2015年3月1日
発行者：美祢市自然保護協会
美祢市立秋吉台科学博物館内
TEL:0837-62-0640

アサギマダラの発見記

昨年10月9日の午後4時頃、自宅の横に植えてあるフジバカマの周囲を、10匹のアサギマダラが飛翔していた。当日は、家内から「蝶々が来はじめたよー」と声がかかった。今年の飛来はこの日が初めてで、一度にこれほど多くのアサギマダラが来たのも初めてであった。例年のようにカメラを向けて撮影中、ファインダーの中に印のある個体を発見した。「えっえっ」と思いながらカメラを置き、マークしてある蝶の捕獲を試みた。私はかぶっていた帽子を片手に持ち、そっと両手で押さえると割と簡単に捕ることができた。

蝶が飛来していたフジバカマは、私の恩師であった故阿武至朗先生から、20年前に数株頂いたものである。先生は「この花にはアサギマダラと云う渡りの蝶々が飛来するから楽しみに育てて下さいね」と言われていた。アサギマダラは、その後毎年数匹が我が家に飛来して来るようになった。そして、昨年飛来してきた蝶の中に、初めてマークが記してある個体を確認するこ

とができ、とても感動した。

この蝶の羽根には「TAT JET 1026 8・2」と記してあったので、直ちに県立山口博物館の先生に連絡すると、数日後に回答があった。その結果、この蝶は長野県蓼科町の女神湖周辺で昨年8月2日に捕獲されマーキングされた1026個体目の蝶であることが分かった（長野～秋芳八代間の飛距離は700km）。

この後、アサギマダラは10月の末頃まで見ることができ、多い日には20匹が観察できた（もちろん、いつも同じ個体ではないが）。彼らはその後また南方に旅



立って行ったのだろう。ちなみにこの蝶は、北海道から中国の香港辺りまで、およそ2千kmも移動しているようである。

会長 中村 久

新資料 E・ガントレットの手紙見つかる

ものということは知られていたが、この両者がどんな関係にあったのか（協力しあったのか等）、それぞれどんな調査をしたのかが今までよく分からなかった。特に中目の業績は殆ど知られていない。

2014年5月鎌倉在住の目黒士門氏（フランス語学者）から、秋吉台科学博物館へ手紙が来た。中には、英文の手紙5通と同氏の送り状があった。それによると、同氏は「中目覚の孫であり、この手紙は祖父の遺品の整理中に見つかったもので、秋芳洞の資料として大切なもの

と思うので送付しました。」とあった。

手紙は、E・ガントレット（山口商高教授）が中目覚（広島高師教授）に書いたもので、1911年（明治44年）から同12年（大正元年）の間の5通7枚である。この二人は、明治40年（1907）当時、瀧穴（秋芳洞）の開発に余念がなかった梅原文次郎がその価値を調査するために招いた

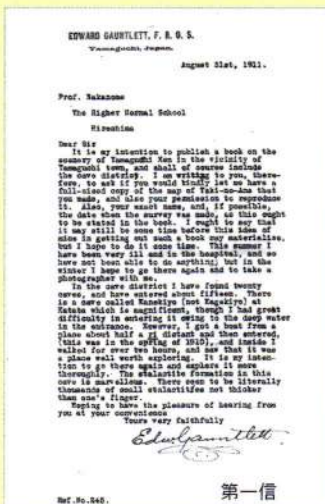
ものであった。手紙には、ガントレットが「本を出版するため、中目が作成したフルサイズの瀧穴図を貸してほしい。複製したい。」と言っている。瀧穴図としては最初のをすでに中目が作成していたことが分かる。ガントレットは1909年に英国の雑誌に瀧穴を紹介し、この中に瀧穴図を載せているが、それより中目の図のほうが優れていると評価したことになる。また、兼清洞、白魚洞、犬が森ポノール、景清穴、瀧穴のジゴクアナ（黒谷）、百合野洞などについて探検談を紹介。ジゴクアナについては、先に入洞した中目に入り方やロープの作り方などを質問し、なんとかして入洞しようとしていたことがわかる。

この手紙により、明治の末頃、地理学者として正確な調査と探検技術を持った中目に、探究心旺盛なガントレットが交流していたことがリアルに読み取れる。（手紙原本は秋吉台科学博物館に保管される。）

秋吉台科学博物館
特別専門員 蔵本 隆博



E・ガントレット



第一信

秋吉台憲章

- 秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。
- 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。

総務部会

平成 27 年が始まったばかりの 1 月 2 日に放送された NHK の「日本列島誕生」をご覧になった方も多いのではないでしょうか。

日本列島の誕生当時、秋吉台はどんな位置づけにあったのか、その時列島を誕生させたプレートが今も活動を続け、いつ起こってもおかしくないと言われる東南海地震に繋がっているとすると、秋吉台を知ることには日本列島の歴史とこれからを知る事とも言えます。

そんな秋吉台を中心に活動する美祢市自然保護協会が守りたい自然とは、あるがままの自然であり、次代の人たちに快適な環境として自信をもって手渡せる自然です。

この会の活動は地味ですが、一步一步の積み重ねがきっと「明日の美しい自然」に繋がってくれるでしょう。

一人でも多くの方が会員の輪に加って、力を貸して下さいと併せます。

総務部長 向山 久高

秋吉台の絶滅危惧種



オキナグサ (翁草)キンボウゲ科

開花は 3 月下旬～ 4 月中旬

30 年前は草原でごく普通に見られたが、植生の遷移、盗掘等により、生育地は限られている。

環境省の 카테고리ー 絶滅危惧 II 類

山口県のカテゴリー 絶滅危惧 I A 類

資料提供 松井 茂生

環境調査部会



秋吉台の草紅葉も盛りを過ぎた 11 月 30 日 (日) に秋吉台の自然保護活動の一環として、『晩秋の秋吉台散策と清掃活動』を行いました。

当日は朝から曇り空で今にも雨が降りそうな天候でしたが、県下各地から約 40 人の参加がありました。特に下関市から親子連れでの参加に役員一同感激しました。長者が森の駐車場で開会行事を済ませたのち、長者が森、冠山そして地獄台を回るコースの清掃活動を行いました。今回はただ単にゴミを拾うことだけでなく秋吉台の自然に詳しい会員による「秋吉台の解説」を行いつつ美化活動でした。参加者の皆さんが和気あいあいとしてとても良い雰囲気の中で終わることができました。これからもこの美しい自然を守るために、多くの人びとの協力を得ながら頑張っていきたいと思えます。

環境調査部長 前田 時博

広報部会

本会は、「国定公園、特別天然記念物秋吉台を核とし、その周辺の自然に親しみ、調査研究して、自然保護に努めるとともに、自然保護思想の普及を図ることを目的」として、旧秋芳町で発足し、今年で 46 年を迎えようとしております。市町合併を機に「美祢市自然保護協会」に名称を変更し、会員募集や活動の範囲も広がり、本会の求められている役割も広範囲化しております。

しかし、その活動内容は広くは知られておりません、そのためにも広報活動は重要な仕事と考え、広報部では、年二回の広報紙発行や小中学生へお願いしての啓発ポスター・習字の募集を継続してまいりました。

しかし、広報の印刷、配布にも限界があることから、今年度、ホームページを立ち上げ、同時に多くの関連サイトにリンクのお願いをしているところです。

どうか一度ご覧をいただき、また、率直なご意見、ご提言を頂けたらと考えております。ホームページの検索は

「美祢市自然保護協会」又は <http://www.c-able.ne.jp/~sizen35/>

ご意見・ニュースの提供は事務局へ E メールでお願いします。

広報部長 兼重 勇



入選作品展示会の様子



広報部 編集会議

美祢市自然保護協会ホームページ

美祢市自然保護協会

検索



みねし しぜんほご きょうかい
美祢市自然保護協会



山口県美祢市



↓ QR コード

HOME 協会紹介 自然保護マップ 美祢市のスポット 自然保護コース リンク集 掲示板

(平成 27 年 1 月 4 日更新 K)

